

大学地域連携モデル 創造支援事業

(9) ビオトープ梅小路公園いのちの森での自然体験学習

【取組内容】

「いのちの森」の生物相調査、「いのちの森」の管理方法についての助言・提案、自然観察会の実施など。

【取組の成果など】

- ①観察会の参加者を対象としたアンケートからは、以下のような回答が得られている。「子どもが生き生きして見学していてとてもうれしく思いました。」(30代、女性)、「自然が減っているなか、町の中に良い場所があると思いました。」(30代、男性)、「思いがけなくふるさと思い出し楽しかった。」(70代、女性)
- ②この他にも、「自然と触れ合う機会を持てて良かった」という内容の回答が、特に子ども連れの方から数多く寄せられており、市民の方々に自然に対する認識と理解を深めていただくという目的は達成されたと考えられる。また、何度も観察会に参加して下さるリピーターの方も増加しており、今後も関心を持って下さる市民の方が増えていくと期待される。



(10) 太秦ヌーヴェル・ヴァーグ・プロジェクト

【取組内容】

学生主体による企画立案(指導協力NPO京文映)、企画書・脚本の作成、スタッフ編成(総勢29名)、キャスト(大学教職員・学生・関係者)、撮影などを行い、今後編集・上映会・映画祭等への出品を予定している。

【取組の成果など】

- ①学生が企画・脚本から撮影、編集まで、役割分担をしながら集団で作り上げることの意義を学んだことがある。映画(ドラマ)制作とは監督を

中心に演技者と撮影、照明、録音、美術、衣裳、編集など多数のスタッフが一体となって、ひとつの世界観を構築する極めて創造的な営みである。そのためには制作意図やメッセージが企画書や脚本に言葉として確実に描き出され、これを全員で共有することが前提となる。このプロジェクトに参加した学生はいずれも美術を学ぶ学生として、個々のイメージを表現の出発点とし、モチーフや作品、自己との対話を繰り返しながら、制作をすすめることが多い。その過程において制作意図やメッセージを他者にわかる言葉にすることは少なく、むしろ言葉にできない心象に形を与えようと模索している。今回の映画制作を通じて、自分の意図や思いを言葉にすることの大切さと、それによって結びつく個々のパワーの素晴らしさを学生たちが学んだことは意義深いものであった。

- ②プロ集団の心と技に触れたことがある。経験豊富なプロの映画人のモノづくりへの執着と確かな技術に触れることができ、これが今後、学生が制作活動を続けていく上で大きな励みとなると思われる。
- ③制作進行の重要性を認識した。スタッフ間の連絡、撮影のための周到な事前準備、撮影許可申請、出演依頼、悪天候などによる臨機応変なスケジュール変更など制作を支えるマネージメント(制作進行)の大切さを実感できたことも収穫であった。
- ④映画の街=太秦のアピールがある。本学(京都嵯峨芸術大学)には全国から学生が集まり、歴史に育まれた豊かな環境の中で本物の芸術文化に触れ、これを次世代の芸術表現につなげることをめざしている。本プロジェクトでは映画制作を通じて学生が地域のNPO京文映から指導を受け、地域の文化資源に触れることが主となり、地域への直接的貢献度はそれほど高くないかもしれない。しかし、映画祭への出品などをとおして、作品が評価されることや、卒業後、京都を離れる学生たちの手で、太秦地域に脈打つ日本映画の魅力が全国に発信される間接的効果は十分に高いものと確信する。



2006年度大学地域連携モデル創造支援事業への応募について

2006年度事業の募集を下記のとおり行います。詳細については募集要項を参照の上、ご応募ください。

- 応募対象** 応募にあたっては、申請事業の実施主体が次の条件に該当・遵守することが必要です。
- ◆下記のいずれかに該当する団体・グループであること。
 - (財)大学コンソーシアム京都加盟大学・短期大学の団体・グループ(大学部署、研究室、ゼミ、クラブ、学生サークル等)
 - 地域住民で構成される団体・グループ。
 - ◆1年程度以上の活動実績・自己資金を有すること(申請事業自体は新規でも可)。
 - ◆適正な経理処理・事業報告ができること。
- 対象事業** 平成18年度中に京都市内で実施される、次の要件に該当する事業を対象とする。ただし、政治活動・営利事業等を目的とするものは除く。また、特に事業実施の当初から大学と地域との協働がなされ、かつ当該事業が地域活性化に貢献するものが望ましい。
- ◆大学又は地域団体等が実施する、大学と地域住民が連携・協働して取り組む事業で、各区基本計画にある個性を活かした魅力ある地域づくり事業と関連したもの。
- 例：保健・福祉、社会教育、まちづくり、学術・文化・芸術又はスポーツの振興、環境保全、地域安全等の様々な分野における調査研究、市民講座、イベントなど。
- ◆先進性、独自性を有し、他の地域のモデルとして応用、展開が期待されるもの。
 - ◆継続性及び発展性が期待できるもの。
- 選考方法** 選考委員会を設置し、応募書類を審査し選定
- 助成件数** 5~10件
- 助成金** 1件につき概ね10~30万円の範囲で助成金を交付
- 申請方法** 区役所・支所、キャンパスプラザ京都、(財)大学コンソーシアム京都のホームページで配布の募集要項に添付の申請書に必要事項を記入し、申請書を【7部】用意の上、(財)大学コンソーシアム京都へ【郵送】にて提出してください(持参・メール等での提出は不可)。複数の大学等または団体等が連携して助成対象事業に取り組む場合は、いずれかの大学等または団体等が代表して応募すること。申請にあたっては各区基本計画との関連について、事業開催地の行政区と意見交換を行い、その内容を申請者が記載すること。
- 受付期間** 2006年5月2日~6月4日(必着)
- URL** <http://www.consortium.or.jp/>

<お問い合わせ先>

- 財団法人 大学コンソーシアム京都リエゾン・オフィス
〒600-8216 京都市下京区西洞院堀小路下るキャンパスプラザ京都
TEL.075-353-9100 FAX.075-353-9101 E-Mail:<laiison@consortium.or.jp>
- 京都市総合企画局プロジェクト推進室 TEL.075-222-3103 FAX.075-213-0443

 財団法人 大学コンソーシアム京都
The Consortium of Universities in Kyoto

■大学地域連携モデル創造支援事業の趣旨・目的

京都市では「大学のまち・わくわく京都推進計画」に基づき、平成16年度から大学と地域との連携による取組に助成金を交付する「大学地域連携モデル創造支援事業」を実施してきました。この事業は、大学にとっては実践的な教育・研究機会の確保による人材の育成などを、地域にとっては大学の研究成果等による課題解決などを促進すること及びこの取組を各区基本計画にある個性を活かした魅力ある地域づくり事業と関連付けることで、各区基本計画の推進に役立てるとともに、事業成果を広く市民に周知することにより、大学と地域との連携をより促進することを目的とします。

■2005年度の事業結果

1. 大学地域連携モデル創造支援事業の募集について

2005年5月20日~6月30日にかけて、下記のいずれかに該当するグループ等を対象に、本事業の支援対象となる取組を募集しました。

- (財)大学コンソーシアム京都加盟大学・短期大学の大学部署、研究室、ゼミ、クラブ、学生サークル
 - 地域住民で構成される団体・グループ
- その結果31件の申請があり、下表の通り10件を採択いたしました(一件あたり10万~30万円支給)。



採択後の認証式にて

番号	取組名	行政区	申請団体	申請概要	協力団体等
1	高大連携☆ Fushimi サイクリングツアー プロジェクト	伏見区	龍谷大学REC	文化観光資源を自転車で結ぶ観光ネットワークを龍大生・伏工生・伏見区民によって発掘し、「伏見自転車マップ」として発信することで、伏見の魅力を見直し、観光客のモビリティを活性化させ、地域の活性化につなげる。平成16年度京都産学連携機構「文理融合・文系産学連携促進事業」採択事業。	龍谷大学経済学部地域活性化プロジェクトおよび伊達セミナー、京都市立伏見工業高等学校デザイン科、京都南部自転車ビジネス研究会、伏見観光協会、株式会社伏見夢工房
2	向こう三軒両々隣り —安心安全の 数珠つなぎマップ作成	南区	立命館大学 産業社会学部 石本ゼミ上鳥羽班	16年度に実施した「安心して暮らせる上鳥羽学区のまちづくり」ワークショップの成果を踏まえ、上鳥羽学区全体の取組として展開を図り、講演会や「安心安全の数珠つなぎマップ」の作成等、住民が主体となった「安心・安全のまちづくり」を進める。	上鳥羽学区自治連合会、南区役所、上鳥羽小PTA、上鳥羽小学校
3	GARE門前町 活性化プロジェクト	下京区	龍谷大学 西本願寺門町 総合調査チーム	地域の伝統工芸品製作技術等を活用し、新たな門前町グッズ・サービスを発掘・考案し、門前町活性化の方策を考え、西本願寺門前町に「にぎわい」を取り戻す。また、取組を通じて一人でも多くの地域住民がまちづくりに参加する環境をつくる。	西本願寺、京都市立植柳小学校、西六条協賛会、東福寺
4	多世代の交流による 参加型造形 ワークショップ	左京区	京都造形芸術大学 全学科目 教職センター	京都造形芸術大学の学生、教員と参加者が、様々な素材を使っでの芸術活動を通じて交流を図ることで、大学と地域社会との信頼・協力関係を強める。平成16年度左京区「大学と地域の相互交流促進事業」採択事業。	京都造形芸術大学
5	京都どまんなか —未来へ伝える 上京知恵袋プロジェクト	上京区	同志社大学 文化情報学部 鋤柄研究室	上京に伝わる生活習慣や伝統行事などの文化についての情報を、学生とボランティア団体が協働して収集し、市民しんぶん上京区版や歴史探訪館のHPで紹介やパンフレットの作成を通じて、日本文化の魅力の再発見を促す。	ボランティアひまわり
6	アニマルセラピー へのとりくみ	北区	京都産業大学 馬術部	アニマルセラピーにより、不登校傾向にある中学生等の子ども達や様々な問題を持つ子ども達の心を癒す。具体的には、馬と触れ合うことでの精神治療を行う。	京都市教育相談総合センター(こども相談センター パトナ)
7	梅津再発見!	右京区	立命館大学 産業社会学部 乾ゼミ	地域の人が梅津の良さを再発見し、学生が地域活動についての理解を深めることを目的に、住民を巻き込んだタウンウォッチングを行い、その成果を梅津交流祭にてパネル展示する。	梅津まちづくり委員会
8	愛宕古道街道灯し	右京区	京都嵯峨芸術大学 短期大学部 インテリアデザイン 研究室	学生と地域住民が共に祭り(愛宕古道街道灯し)をつくりあげていくことを通じて、歴史や文化への理解や相互交流を深め、地域の活性化、智恵の共有を目指す。	嵯峨野保勝会
9	ビオトープ梅小路公園 いのちの森での 自然体験学習	下京区	京都ビオトープ研究会	梅小路公園内のビオトープいのちの森での自然観察会を行い、学生や研究者、アマチュア自然愛好家の解説により、自然環境に対する認識と理解をより高く深いものとする。	京都大学大学院農学研究科 環境デザイン学研究室、 (財)京都市都市緑化協会
10	太秦ヌーヴェル・ ヴァーグ・ プロジェクト	右京区	京都嵯峨芸術大学 メディアアート研究室	NPO団体と連携し、学生たちの視点からとらえた京都(太秦)の伝統文化の魅力を映像作品として仕上げ、地域住民を対象とした上映会の開催、発表等を行うことで、太秦地区の地域振興に役立てる。	NPO京都の文化を 映像で記録する会

2. 採択した取組の紹介

(1) 高大連携☆Fushimiサイクリングツアープロジェクト

【取組内容】

地域における観光課題や交通課題の検証、地域における観光資源の調査、「自転車とまちづくり」をテーマとしたシンポジウムの開催、自転車観光コースの調査、「伏見自転車マップ」の制作など。

【取組の成果など】

- ①「自転車観光」という新たな観光スタイルおよび観光ルートの提案がある。伏見において点在する観光資源を自転車で結び、「ご利益」「幕末」「名水・酒蔵」といった3つの分野において、地域の観光ネットワークを構築することができ、地域を訪れる観光客に対し、伏見の魅力を感じ取れる新たな観光スタイルおよび観光ルートを提案することができた。
- ②観光資源の再認識がある。伏見で生活する地域住民が感じる「伏見らしさ」をヒヤリングする中で、地域の人々にとっても、伏見にある多くの地域資源や魅力を再認識する機会となった。また、地域で生活する人々にとっての「伏見」への関心の高さや愛着といったものを認識することができ、今後自転車を活用したまちづくりを推進するにあたっての協力関係を築くことができた。
- ③自転車活用への期待がある。地域住民へのヒヤリングやシンポジウムの開催を通じて、伏見での自転車の活用可能性が確認され、地域での期待感を高めることができた。伏見地域を観光に訪れる場合、自動車や観光バスで訪れることが多く、交通渋滞や歩行者への危険性が懸念されていた。その中で「自転車」もしくは「公共交通機関+自転車」という組み合わせによって地域の回遊性を高めることが、地域の活性化にもつながると確認できた。



(2) 向こう三軒両々隣り—安心安全の数珠つなぎマップ作成

【取組内容】

「安心安全の数珠つなぎマップ」についてのアンケート調査の実施、マップ作成のPR、安心安全の数珠つなぎマップの作成、上鳥羽班による「児童の下校時ってこんなの!!」調査など。

【取組の成果など】

- ①今回の安心安全の数珠つなぎマップの作成は、自治連合会やPTAによる防犯グッズ等による防犯対策や下校時の見守り活動など、具体的な行動による安全対策に加え、日々のご近所づきあいの復活による、住民の互いの目と声かけでつなぐことで安心安全なまちの環境づくりにつながる流れが確認された。
- ②「安心安全の数珠つなぎマップ」の作成は、『目に見える形』でまちの安心度を確認するとともに、取組経過を通じて、住民のまちの安心安全に対する意識向上につながった。
- ③これまで学区全体のまちづくり活動はあまり活発とは言えない学区であり、まちの安心安全の取組から、自治連合会が中心となったまちづくり活動の活性化と継続性の効果をもたらした。



(3) GARE (ギャレ) 門前町活性化プロジェクト

【取組内容】

児童による門前町を題材にした絵画作成・絵画展の実施、東福寺を対象とした観光客急増の原因調査、西本願寺門前町における事業者対象アンケート調査の実施など。

【取組の成果など】

- ①まちづくりの基礎である「人づくり」に貢献した。地域住民(含:児童)が門前町に関心を向けるきっかけを作った。児童に参加してもらうことによって、世代間の人的交流が生まれた。絵画展の開催で、子どもが寺院を訪れる機会を作った(従来は、盆踊り開催時のみであった)。
- ②宗教施設(西本願寺)に依存しない門前町の可能性を示唆した。京都駅利用者の「回遊性」を高めることの重要性を指摘した。仏壇・仏具製造技術の他分野への応用可能性を示唆した。



(4) 多世代の交流による参加型造形ワークショップ

【取組内容】

瓜生山散策とカレンダー制作のための材料収集、カレンダー制作、カレンダー制作の参考作品展示、オブジェ制作の完成までの過程鑑賞、舞台芸術学科の学生自身の即興による身体表現、モンゴル琴・モンゴル民族舞踊の鑑賞、油彩画作品展示、造形題材体験など。

【取組の成果など】

- ①自然環境に恵まれた瓜生山に位置する大学のキャンパス、その場を活用した様々な造形プログラムを開発、提供したことは、本大学(京都造形芸術大学)の教育、研究だけではなく地域住民との様々な造形活動の体験できる場として大学を広く開放できた。
- ②教職センターの以前より行っている造形活動プログラムに熱心に参加している子どもの保護者が組織し、当事業のための参加者募集広報活動及び当日の子どもの参加のための引率の支援を行った。
- ③当事業が地域の小学校で行うさらなる造形活動を行う機会の提供を得た。
- ④参加者にとっては瓜生山にある材料や場所、環境や状況を生かして、自然に感動する心や体全身や手を使って造形活動する行為の中で、その行為性や創造性を通じ、自分たちの地域の身近な自然に関心を持つと同時に自分自身の資質やよさを伸張することができた。
- ⑤カレンダーという日常に使うことができる題材から参加者自身が造形作品と日常生活との関係性を考えることができた。
- ⑥対象者を多世代の人々としたことで、世代をこえた人々が交流できたこと、参加者と学生や教員との交流の機会にもなり造形活動する喜びや感動をともに共感できた。
- ⑦教員、学生にとっても本事業の造形プログラムを開発、参加者に提供することで、彼らの潜在ニーズを知ることができた。
- ⑧本事業を開催することにより、造形活動の社会的有用性や地域の身近な自然への関心をつくる、その体制構築の下地作りとなったこと、当大学と地域住民とのさらなる交流を図ることにつながった。



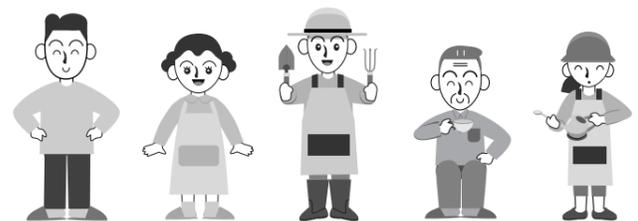
(5) 京都どまんなか—未来へ伝える上京知恵袋プロジェクト

【取組内容】

上京区の生活に生き続けている深い歴史性を持った伝統文化・生活習慣の聴き取り調査、アンケート調査、データをとりまとめた冊子の刊行など。

【取組の成果など】

- ①冊子を作成し、その成果を地域に還元することで、ボランティアひまわりの活躍がより認知され、地域における活動の活性化がはかれる。
- ②学生が冊子をまとめる過程で、実際に上京をあるき、上京の人と出会うことで、あらためて上京と京都の歴史と文化を深く学ぶことができた。



(6) アニマルセラピーへのとりくみ

【取組内容】

京都市教育相談総合センター(こども相談センター パトナ)との「馬とのふれあい教室」の企画相談、経費確保のため、京都産業大学の学生支援プログラムである「サガリウスチャレンジ」に応募(その結果採択される)、馬術部員のパトナにおける研修受講、馬術部員対象の事前準備用冊子の作成、受講生対象の事前準備用冊子の作成、計4回に渡る「馬とのふれあい教室」の開催、事後フォローなど。

【取組の成果など】

- ①この「馬とのふれあい教室」を実施することで、昨年に引き続き何人かの生徒が学校に行けるようになった。
- ②私達部員にとっても相手のことを思いやり、接することの難しさ、そして大切さを改めて実感した。
- ③馬という生き物が私達人間に与えてくれる癒し、原動力の偉大さを感じた。



(7) 梅津再発見!

【取組内容】

梅津まちづくり委員会と協働でのまちあるき企画「わがまち梅津おもしろ歴史探訪」を9月19日、12月11日の2回実施(具体的にはコース設定と下調べ、参加者配布用資料の作成、チラシ配布活動等の広報)、まちあるき企画を元にした地域を紹介する歴史探訪マップ作成など。

【取組の成果など】

- ①まちあるきイベント「わがまち梅津おもしろ歴史探訪」1回目を実施した(日時:2005年9月19日(祝)午後1時半~午後5時40分、集合:梅津自治会館、参加者:37名(内梅津まちづくり委員会役員6名)+学生11名)。第1回のまちあるきでは梅津にある自治会館(東横口町)を拠点とした。まちあるきの範囲は、自治会館から梅津小学校まで(東西)、四条通りから桂川の付近まで(南北)である。この日の参加者は全体で50名程で、それを北回りコースと南回りコースの二手に分け、その各チームにガイドを付けて、全17箇所の歴史チェックポイントを紹介し、まちあるき終了後ワークショップを行った。
- ②まちあるきイベント「わがまち梅津おもしろ歴史探訪」2回目を実施した(日時:2005年12月11日(日)午後1時半~午後5時、集合:梅津小学校ふれあいサロン、参加者:29名(内梅津まちづくり委員会役員6名+歴史家の長谷川氏)+学生11名)。第2回のまちあるきでは梅津小学校(中村町)を拠点として、全13箇所の歴史チェックポイントと、資料のみに記載のポイント5箇所を回った。今回も前回同様に北回りと南回りのチームを作ったが、それぞれ2名ずつガイドを同行した。まちあるき後は前回同様、感じたことや思ったことを出し合うワークショップを行った。
- ③わがまち梅津おもしろ歴史探訪地図を作成してきている。2回のまちあるきでまわった歴史チェックポイントを元に、誰でも簡単に使えるまちあるき地図の作成に取り掛かっており、現在試作段階まで到達してきている(作成後梅津地区自治会会員4000戸に配布予定)。



(8) 愛宕古道街道灯し

【取組内容】

取組団体(嵯峨野保勝会、京都嵯峨芸術大学)での打ち合わせ、原材料(竹)の確保、ポスター、チラシ、Tシャツ、てぬぐい等のデザイン、行灯作成、広報・制作活動、8月23・24日の千灯供養の当日前後の準備・実施など。

【取組の成果など】

- ①祭りをつくるということは、人と人とが関わる場をつくる事でもあり、この祭りが、人や物との様々な出会いの場として機能した。
- ②竹と和紙から、照明ができるという、つくる喜び。またそれが古い町並みが残る街道沿いという、特別な場におかれることでの、空間と光りとの言葉にできない関係による感動。そうしたことを経験し、共有できたこと。
- ③観光でこられた人々には、竹と和紙という、日本古来の材料で作られた素朴な灯での空間演出により、京都という場所性をより意識してもらえることとなった。
- ④竹と和紙という、昔からある材料を用いることで、お年寄りから子どもまでが、共に行灯制作に関わることができ、世代を超えた知恵の共有が行われた。
- ⑤地元でとれたもので、地元の空間を演出することで、人それぞれに、場所への愛着というものを再認識するきっかけとなった。

